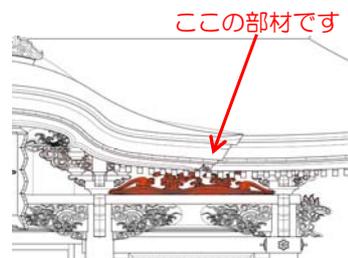




だいわ
台輪上彫刻

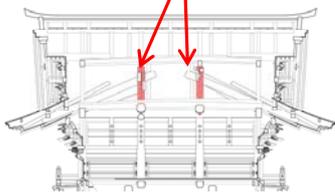
無くなってしまっていた彫刻を古材を見本にして、新たに彫りました。



上層 小屋束

倒壊により破損した箇所を丁寧に補修しました。

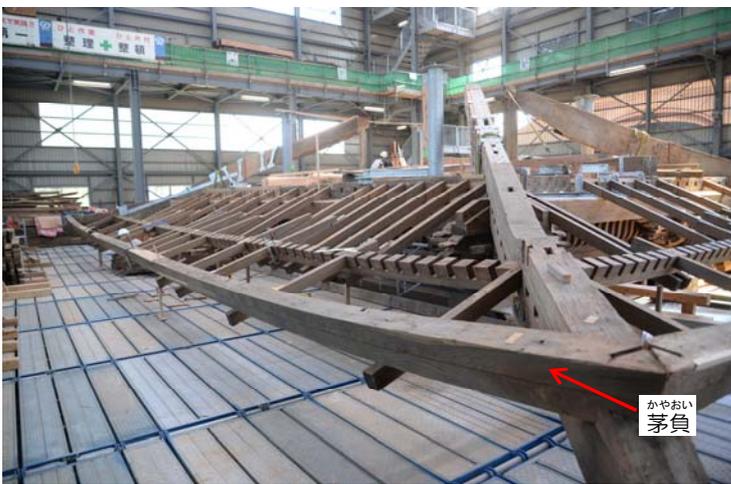
この部材です



かやおいかりぐみ
茅負仮組

古材の茅負の長さに合わせて、隅木の角度を決めました。

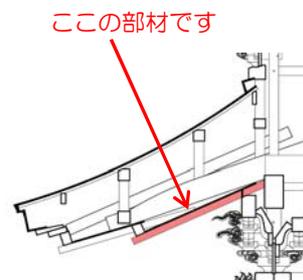
この部材です





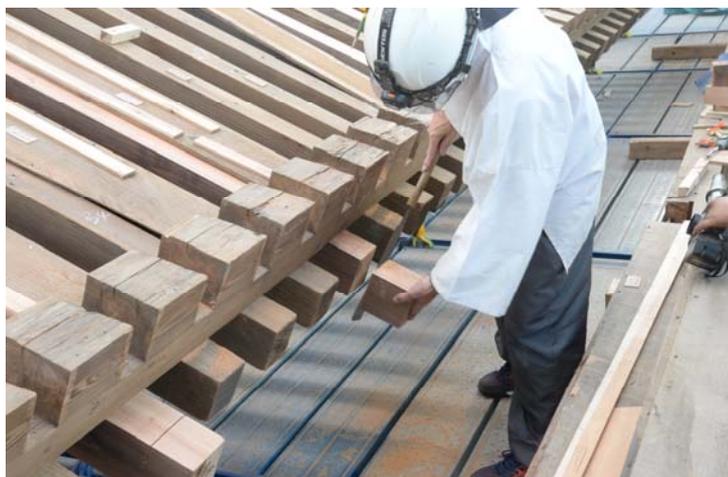
じたるき
地垂木 1

隅木の位置を決めたのち、軒廻りの組立を行いました。



地垂木 2

新材地垂木の先端は古材に合わせて最後に切り、木口は鉋で仕上げました。



ぬのうらごう
布裏甲

茅負と布裏甲をクランプで締め付け、仮固定し、5寸釘(長さ150mmの釘)で釘止めしました。角の部分は銚(かすがい)で布裏甲同士を止付けました。





けしろうらいた
化粧裏板

垂木の裏側に打ち付ける板です。表面の垂木等のあとに合わせ釘止めしました。

こちらの部材です。



唐破風 化粧裏板

補修した箇所や、新材の裏側は古色を塗っていないので色が違います。

こちらの部材です。



はねぎかりお
桔木仮置き

これから取付く構造補強の鋼材と接触しないように据付位置を調整しました。

桔木



こちらの部材です。